

阪南市埋蔵文化財報告 59

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 37

2019年

阪南市教育委員会

## はしがき

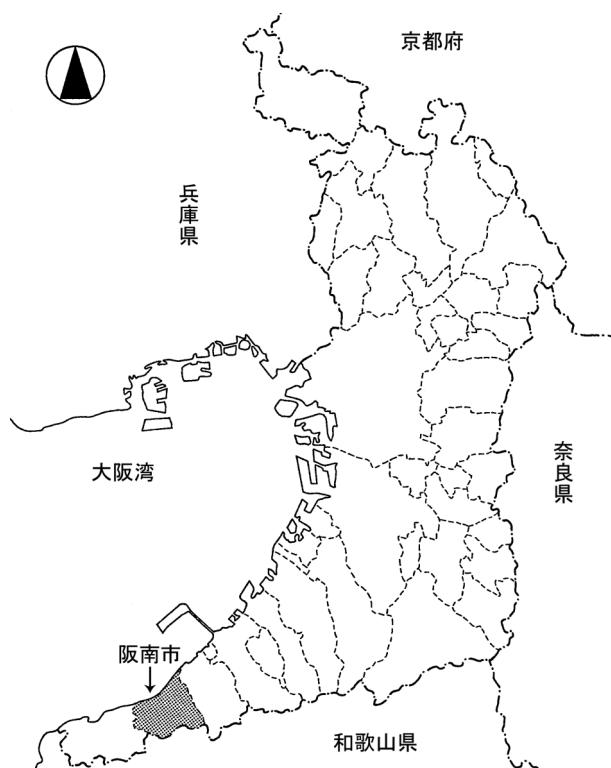
阪南市は北に大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる、大阪府下でも自然豊かな立地に所在しています。

高度成長期に始まった開発の波が自然破壊と共に多くの遺跡を破壊していく中で、当市教育委員会では昭和60年度より国庫補助金を受けて発掘調査を続けてまいりました。その結果、地域の歴史が徐々に解明されています。

本書は平成30年の国庫補助事業として実施した発掘調査概要報告書です。今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが発掘調査に際し、開発者や土地所有者並びに関係者各位にはご協力を賜り、感謝をいたしますとともに、今後も当市の文化財行政にご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成31年3月31日  
阪南市教育委員会



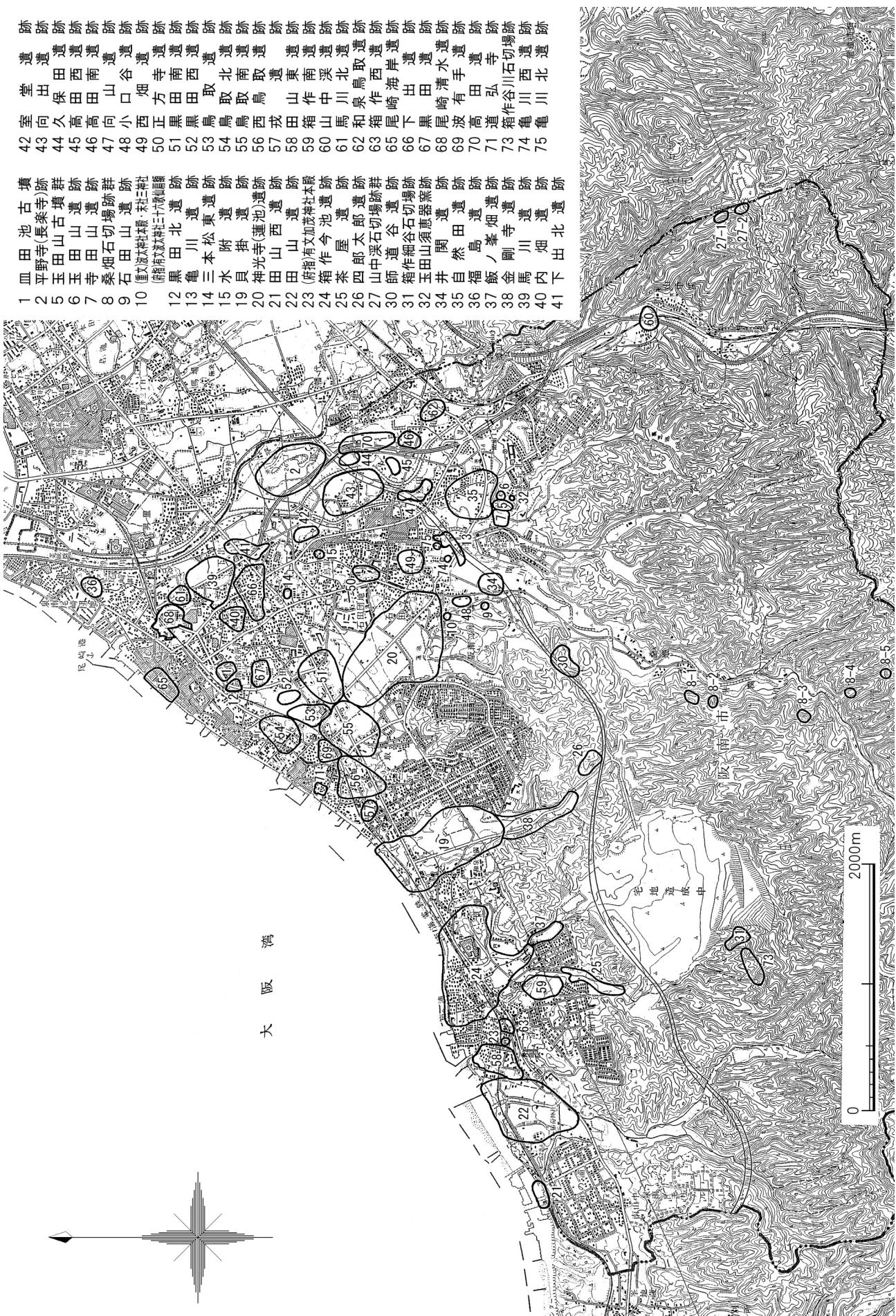
第1図 大阪府阪南市位置図

## 例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が市内において実施した阪南市埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、平成30年の国庫補助を受けて実施した。
3. 現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野仁、山千代明日香、須崎雄一朗(嘱託)、堀あゆ美(嘱託)、島田万帆(嘱託)を担当として行った。
4. 本書内で示した標高はT.P.(東京湾平均海面)を基準としている。
5. 土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(2000年版)を使用した。
6. 発掘調査にあたっては関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
7. 本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。
8. 本書の執筆、編集は阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、山千代明日香、須崎雄一朗、島田万帆が行った。
9. 発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。  
古牧敬、杉田正千代、滑田幸男、菱山良太、湯川和彦、井上祥子、  
井上進、大越良裕、和田旬世、柳沼綾美

## 目 次

第 1 節	馬 川 遺 跡	(1) 18 - 1 区	1
		(2) 18 - 2 区	2
第 2 節	西 鳥 取 遺 跡	(1) 18 - 1 区	3
第 3 節	鳥 取 南 遺 跡	(1) 18 - 1 区	5
第 4 節	貝 掛 遺 跡	(1) 18 - 1 区	6
第 5 節	箱 作 今 池 遺 跡	(1) 17 - 1 区	7
		(2) 17 - 2 区	8
		(3) 18 - 1 区	10
		(4) 18 - 2 区	13
第 6 節	箱 作 南 遺 跡	(1) 18 - 1 区	14
		(2) 18 - 2 区	15
報 告 書 抄 錄			16



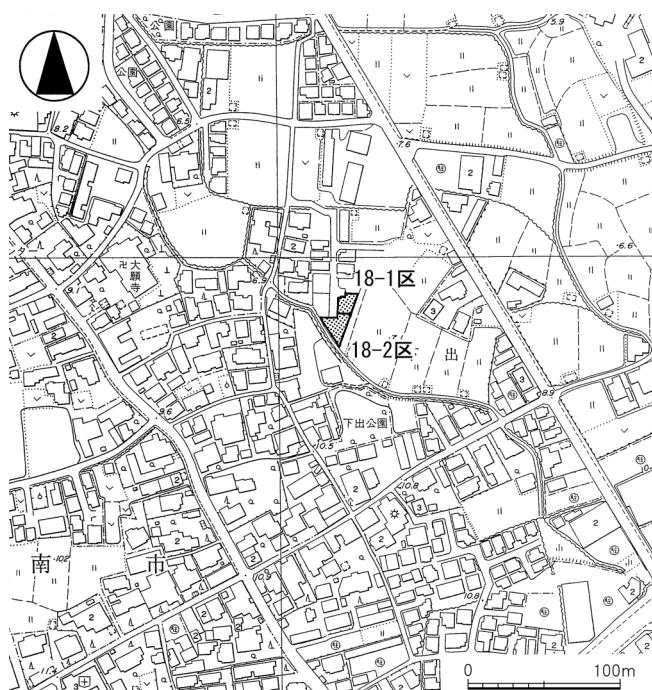
第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

## 第1節 馬川遺跡

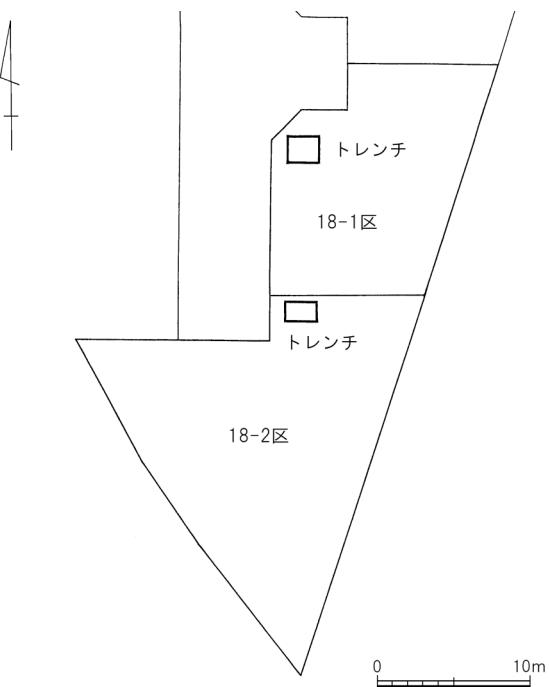
馬川遺跡は市域の北東部を流れる男里川の左岸に位置し、砂州である低地部と和泉山脈から派生した段丘上にまたがっている。昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査により発見、周知された。

遺跡は北を縄文時代後期から弥生時代中期の流路を検出した馬川北遺跡、南を中世期の墓地を検出した下出遺跡、西を平安時代から近世期の遺構、遺物を検出した内畠遺跡によって囲まれ、男里川の対岸には縄文時代以降の複合遺跡として知られる男里遺跡(泉南市)が所在する。

低地部である東部と段丘上である西部では遺跡の性格が異なり、低地部ではサヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器等の弥生時代から奈良時代にかけての遺物が多く出土し、17-4区では古墳時代後期から飛鳥時代に属する堅穴住居10棟が確認された。段丘上では多量の中世瓦が出土していることから付近に中世寺院の存在が想定される。また、その他に中世期の蛸壺焼成土坑、近世期の墓地等も検出されている。



第3図 馬川遺跡 調査区位置図



第4図 馬川遺跡18-1・18-2区 トレンチ位置図

### (1) 18-1区 (第3~6図)

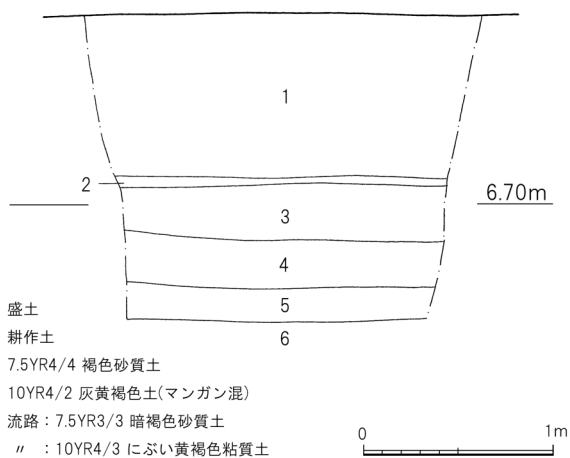
調査区は馬川遺跡の中央部に位置する。調査区内の西部に2.1m×1.7mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層7.5YR4/4褐色砂質土、第4層10YR4/2灰黄褐色土(マンガン混)、第5層7.5YR3/3暗褐色砂質土、第6層10YR4/3に

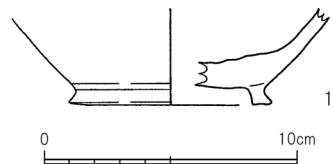
ぶい黄褐色粘質土で、地表面より-1.62mまで掘削したが、地山の検出にはいたらなかった。近隣の調査より第5層以下は流路埋土と思われる。

遺物は第3層からサヌカイト、須恵器、須恵器飯蛸壺、製塩土器(奈良)、土師質土器、瓦器、土師質真蛸壺、第4層からサヌカイト、須恵器、製塩土器(奈良)、土師質土器、第5層から土師器、須恵器、土師質土器、瓦器が出土した。いずれも中世期の層と思われる。1は須恵器の壺で、第3層から出土した。

遺構は検出されなかった。



第5図 馬川遺跡18-1区 トレンチ南側断面図



第6図 馬川遺跡18-1区 出土遺物

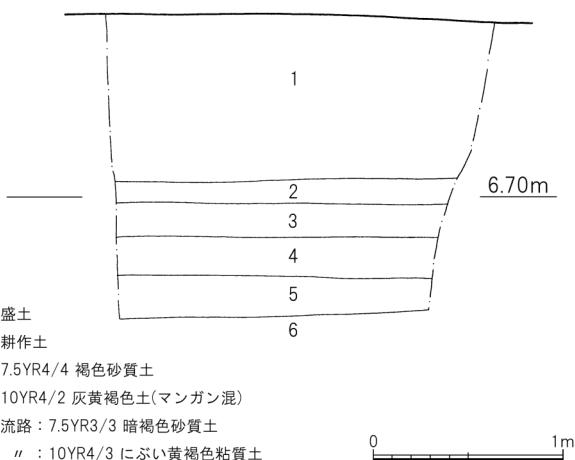
## (2) 18-2区 (第3・4・7図)

調査区は馬川遺跡の中央部に位置する。調査区内の北部に2.0m×1.3mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層7.5YR4/4褐色砂質土、第4層10YR4/2灰黄褐色土(マンガン混)、第5層7.5YR3/3暗褐色砂質土、第6層10YR4/3にぶい黄褐色粘質土で、地表面より-1.60mまで掘削したが、地山の検出には至らなかった。18-1区と同様に第5層以下は流路埋土と思われる。

遺物は第3層から土師質土器、瓦器、土師質真蛸壺、第4層から土師器、須恵器、製塩土器(奈良)、土師質土器、瓦器、中世瓦、片岩、炭化物、第5層からサヌカイト、土師器、須恵器、製塩土器(奈良)、土師質土器が出土した。いずれも中世期の層と思われる。

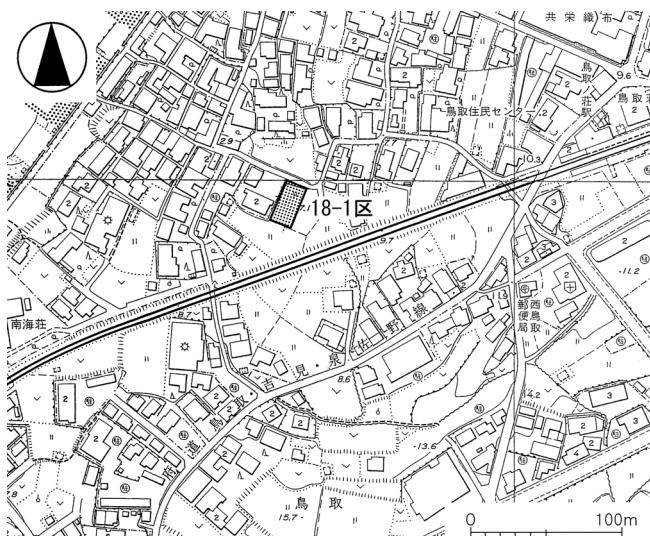
遺構は検出されなかった。



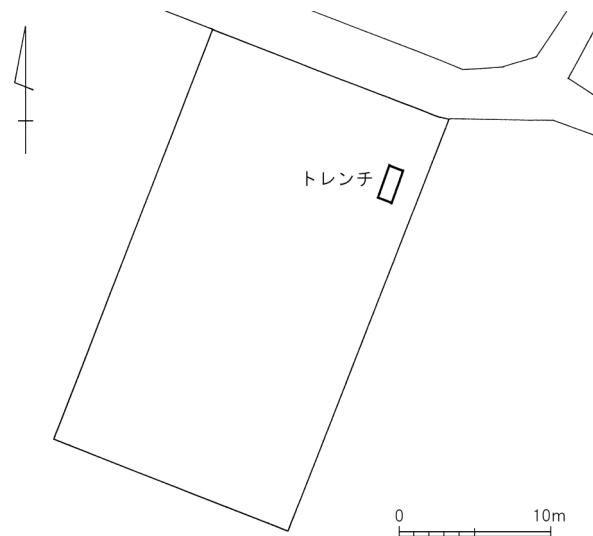
第7図 馬川遺跡18-2区 トレンチ南側断面図

## 第2節 西鳥取遺跡

西鳥取遺跡は市域北部に広がる平野部の西側に位置し、北東は波有手遺跡、東は鳥取南遺跡に接し、西約20mに戎遺跡が所在する。昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査により発見され、現在までに30数件の調査が行われているが、調査は全て小規模なもので、遺跡の詳細は現在のところ不明である。



第8図 西鳥取遺跡 調査区位置図

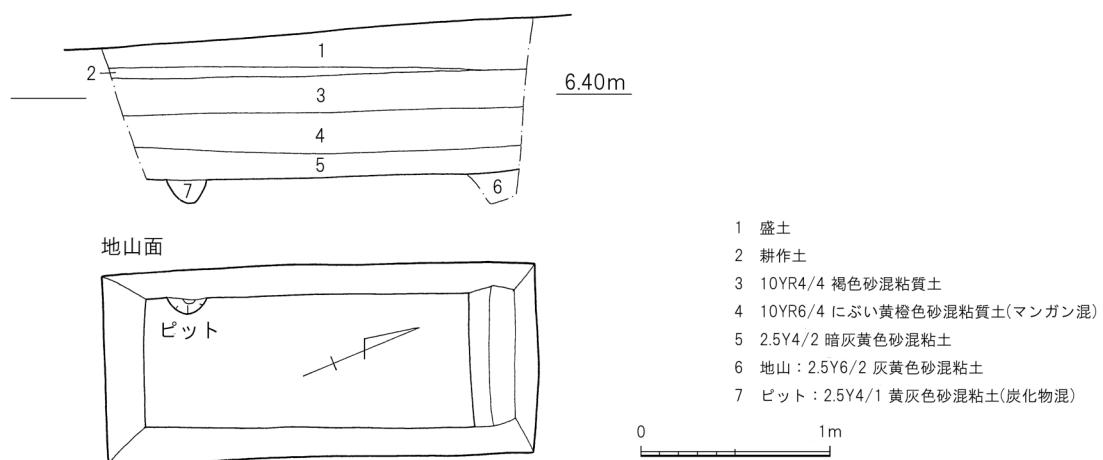


第9図 西鳥取遺跡18-1区 トレンチ位置図

### (1) 18-1区 (第8~10図)

調査区は西鳥取遺跡の北部に位置する。調査区内の北東部に2.3m×1.0mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層10YR4/4褐色砂混粘質土、第4層10YR6/4にぶい黄橙色砂混粘質土(マンガン混)、第5層2.5Y4/2暗灰黄色砂混粘土、第6層は2.5Y6/2灰黄色砂混粘土の地山である。地山は地表面から約-0.80



第10図 西鳥取遺跡18-1区 トレンチ平面・断面図

mで検出した。

遺物は第3層から土師質土器、陶器、磁器、第4層から須恵器、土師質土器、土師質真蛸壺、炭化物、第5層から土師器、須恵器、製塩土器(奈良)が出土した。第3層は近世期、第4層は中世期、第5層は奈良時代の層と思われる。

遺構は地山面で、ピット1基を検出した。

ピットは直径約0.20m、深さ約0.12mを測る。埋土は2.5Y4/1黄灰色砂混粘土で、炭化物が混じる。遺物は出土しなかった。

### 第3節 鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が実施した埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。既往の調査では、弥生時代後期から中世期にかけての土坑、溝等の遺構や遺物を検出している。

#### (1) 18-1区(第11・12図)

調査区は鳥取南遺跡の南西部に位置する。

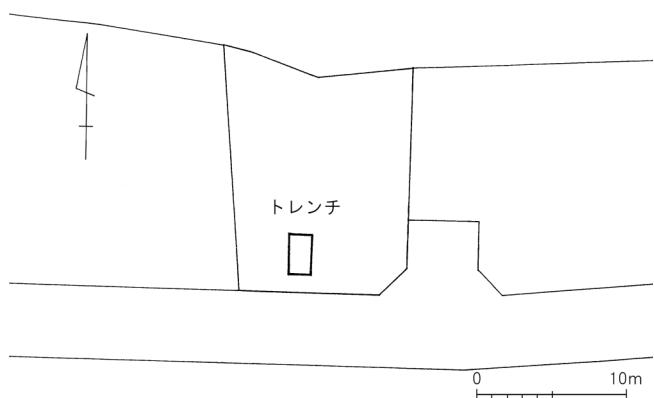
調査区内の南部に2.6m×1.5mのトレンチを設定して調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土で、地表面から約2.7mまで掘削したが地山の検出にはいたらなかった。

遺構は検出されず、遺物は出土しなかった。



第11図 鳥取南遺跡 調査区位置図



第12図 鳥取南遺跡18-1区 トレンチ位置図

## 第4節 貝掛遺跡

貝掛遺跡は当市の中央部を流れる釧迦坊川と花折川に挟まれた南北に長い谷に位置する。遺跡は北部と南部で様相が異なる。北部は、平成元(1989)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った調査により、7世紀前半の建物跡を検出したほか、土坑から金銅製耳環や奈良三彩の八曲長杯等、特異な遺物が出土している。対して南部は、昭和61(1986)年度に財団法人大阪府埋蔵文化財協会(当時)が実施した調査で、近世期の建物跡が確認され、文献や絵図等に記載されている同時代の集落「舞村」の存在が裏付けられた。その他、昭和61(1986)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った調査では中世期の溝が数条検出されたほか、縄文時代のサヌカイト製石槍や石鏃、須恵器、瓦器、近世陶磁器等、様々な時代の遺物が確認された。

### (1) 18-1区 (第13~15図)

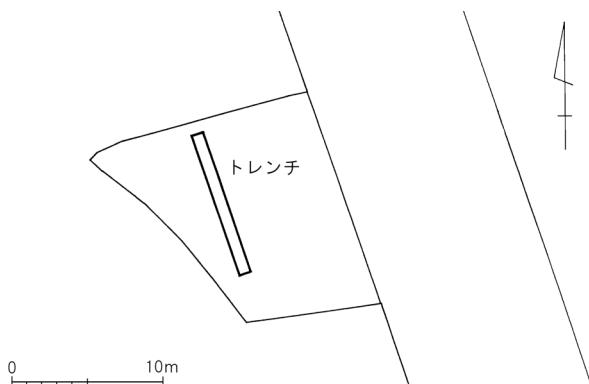
調査区は貝掛遺跡の中央部に位置する。調査区内の西部に9.9m×0.8mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層10YR6/2灰黄褐色粘質土(マンガン混)、第4層10YR6/4にぶい黄橙色粘質土(マンガン混)、第5層2.5Y6/4にぶい黄色風化礫混粘質土、第6層10YR7/6黄橙色粘質土で、第4層より下は地山で、地表面より約-0.30mで検出した。遺物は第3層から土師質土器が出土した。

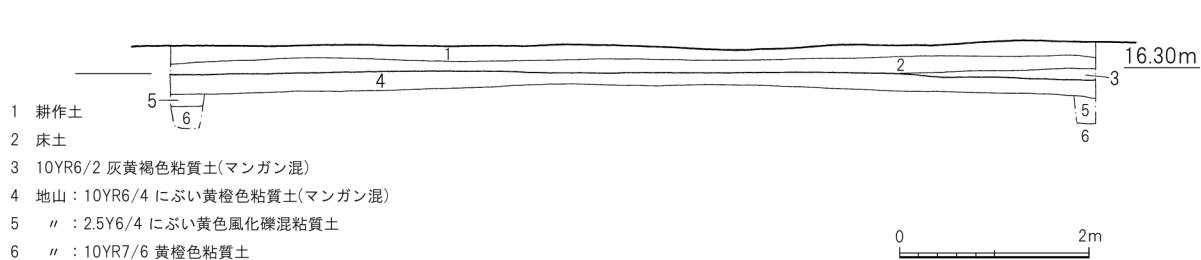
遺構は検出しなかった。



第13図 貝掛遺跡 調査区位置図



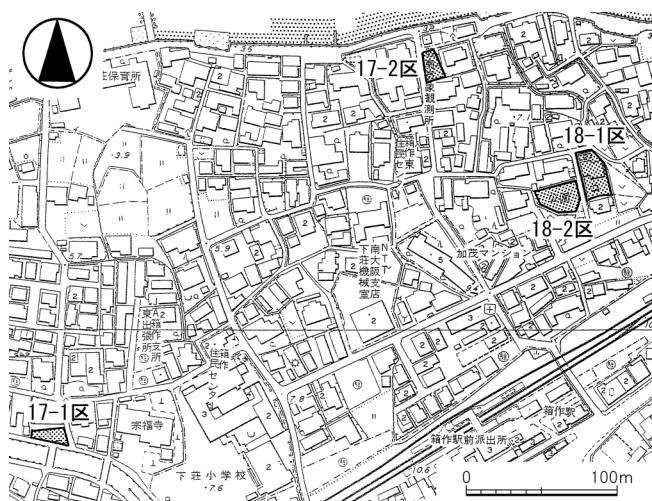
第14図 貝掛遺跡18-1区 トレンチ位置図



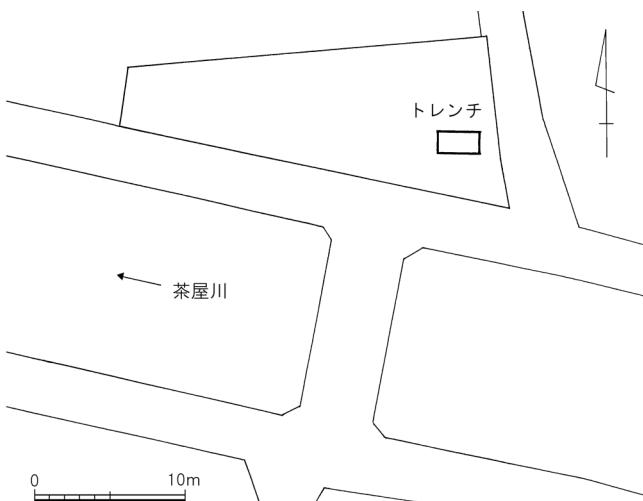
第15図 貝掛遺跡18-1区 トレンチ西側断面図

## 第5節 箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は阪南市の北西部、茶屋川とその支流である飯ノ峯川が形成する扇状地に位置する。平成5(1993)年度に財団法人大阪文化財センター(当時)が行った区画整理事業に伴う遺跡南部の調査により、奈良時代に掘立柱建物群が築造され、室町時代には大規模な土地改変で耕地化されたことが分かっている。一方、遺跡北部は海岸線に近いことから中世期の蛸壺をはじめとする漁具が出土しており漁労集落の存在が想定されるものの、旧市街のため調査例は少なく、現在のところ詳細は不明である。



第16図 箱作今池遺跡 調査区位置図



第17図 箱作今池遺跡17-1区 トレンチ位置図

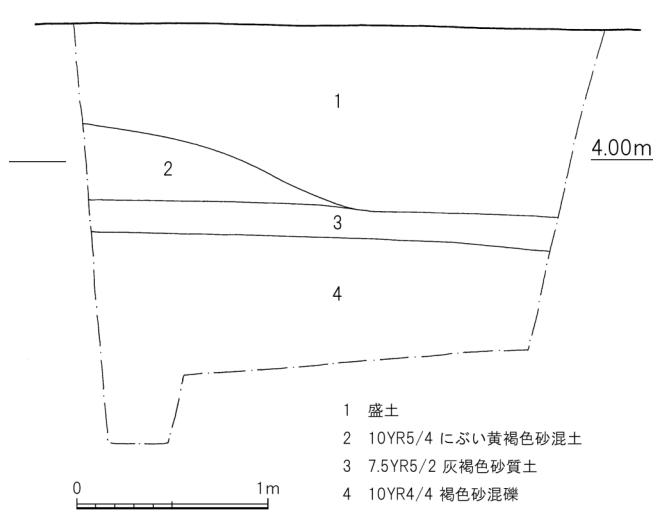
### (1) 17-1区 (第16~19図)

調査区は箱作今池遺跡の西端に位置し、南側を茶屋川が流れる。調査区内の南東部に2.8m×1.5mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層10YR5/4にぶい黄褐色砂混土、第3層7.5YR5/2灰褐色砂質土、第4層10YR4/4褐色砂混礫で地表面から約-2.20mまで掘削したが、地山の検出にはいたらなかった。

遺物は第3層から土師質土器、瓦器、瓦質土器、中世瓦、第4層から須恵質土器、土師質土器、瓦器、土師質真蛸壺が出土した。いずれも中世期の層と思われる。

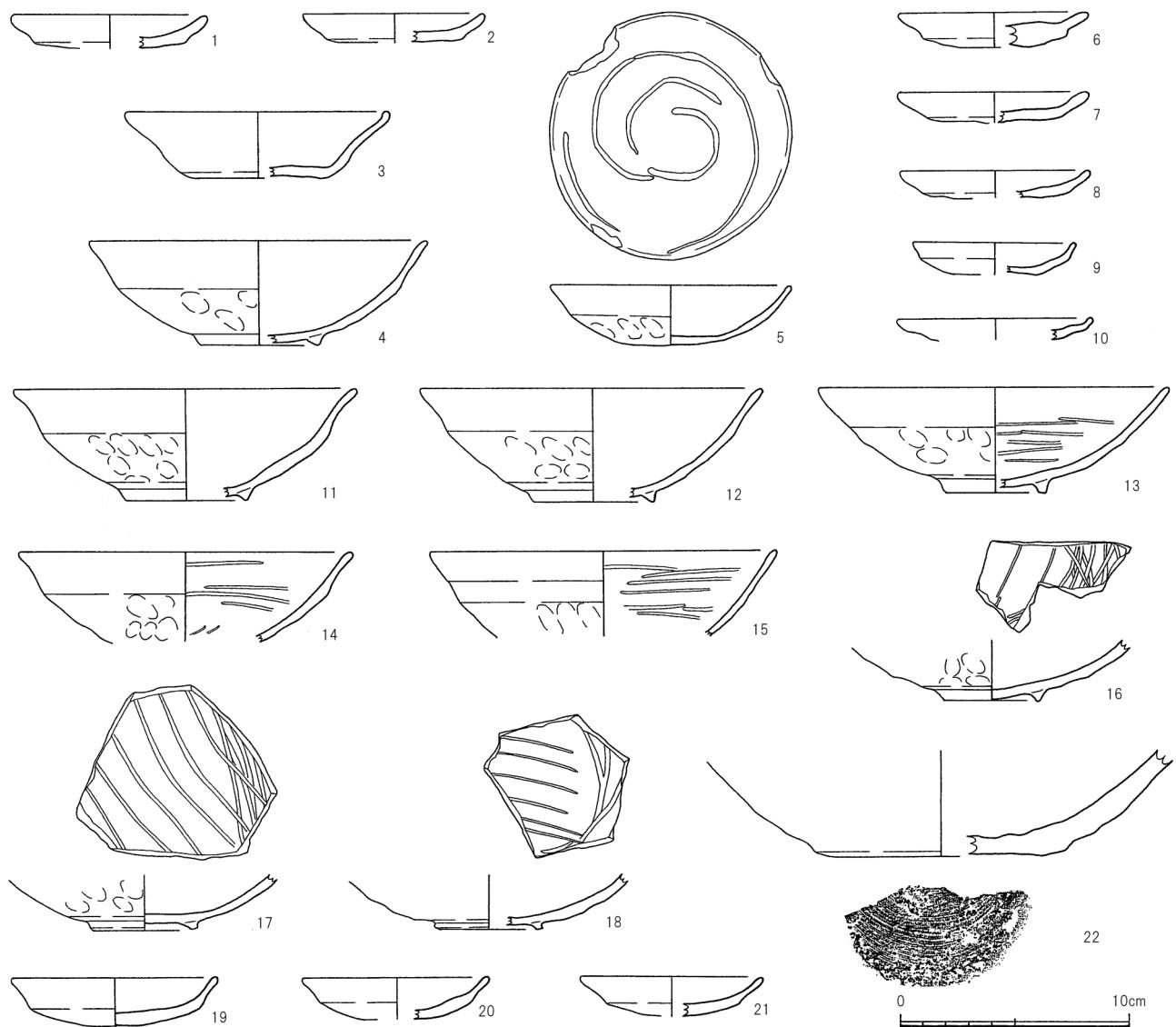
1~3は土師質土器で1・2は小皿、3はいわゆる白土器の皿、4・5は瓦器



第18図 箱作今池遺跡17-1区 トレンチ北側断面図

椀で第3層から出土した。6～10は土師質土器の小皿、11～21は瓦器で11～18は椀、19～21は小皿である。22は須恵質の捏鉢で東播系と思われる。6～22は第4層から出土した。

遺構は検出されなかった。



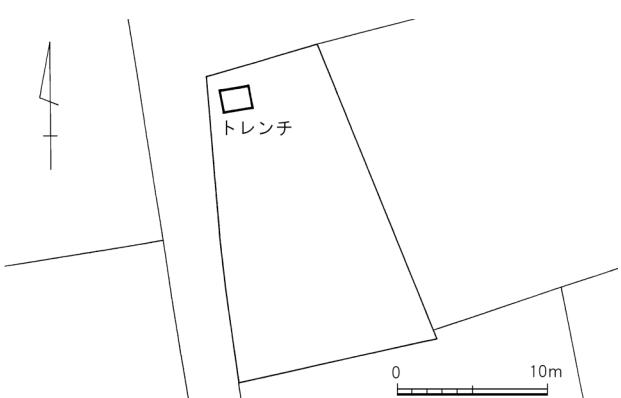
第19図 箱作今池遺跡17-1区 出土遺物

## (2) 17-2区 (第16・20～22図)

調査区は箱作今池遺跡の北部に位置する。調査区内の北部に2.0m × 1.5mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層10YR 7/8黄橙色粘土の地山である。地山は地表面から約-0.25mで検出した。

遺構は地山面で、土坑を3基検出した。

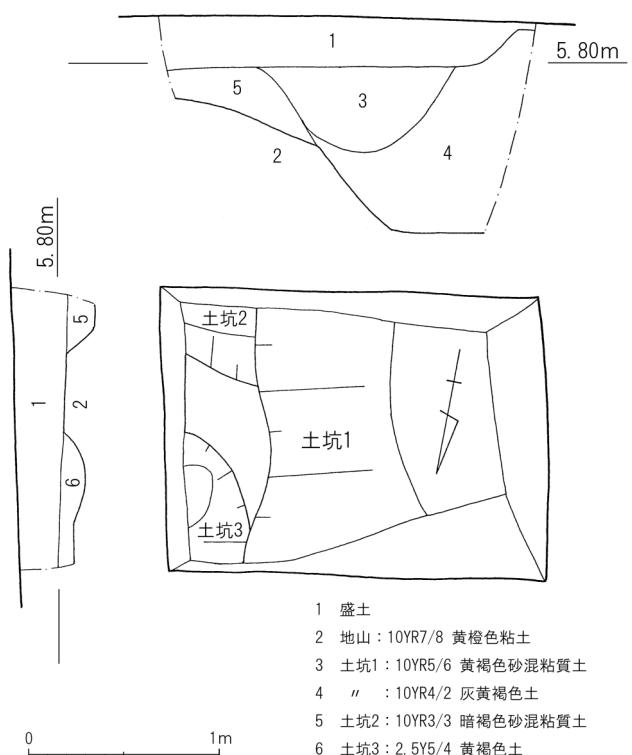


第20図 箱作今池遺跡17-2区 トレンチ位置図

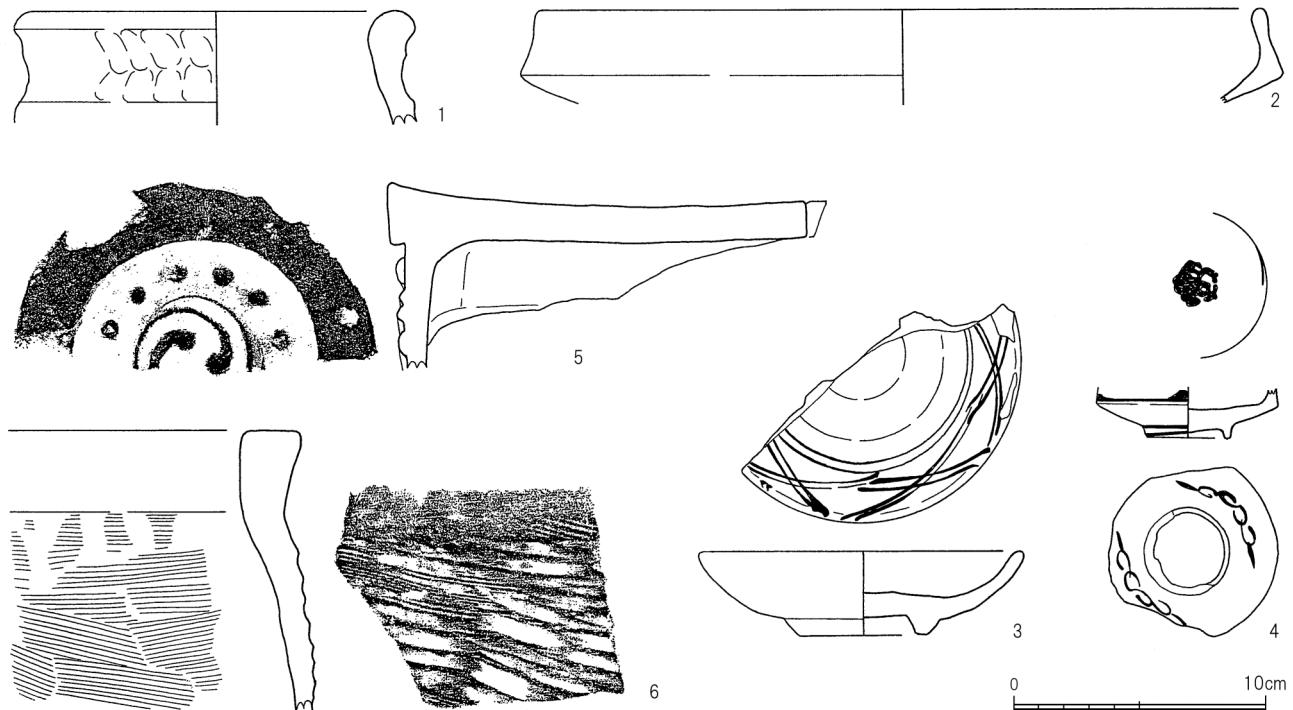
土坑1は東西1.57m以上、南北1.50m以上、深さ約1.07mで、トレンチ外へ広がる。埋土は上層が10YR5/6黄褐色砂混粘質土、下層が10YR4/2灰黄褐色土で、遺物は土師質土器、瓦器、土師質真蛸壺、陶器、磁器、近世瓦、鉄釘、炭化物、スサ入り焼土塊が出士した。1・2は土師質土器で1は真蛸壺、2は炮烙、3・4は磁器で3は皿、4は筒型椀、5は近世期の巴文軒丸瓦である。19世紀の遺構と思われる。

土坑2は東西0.76m以上、南北0.50m以上、深さ0.40m以上で、トレンチ外へ広がる。埋土は10YR3/3暗褐色砂混粘質土で、6の土師質湊焼甕が出士した。16世紀後半の遺構と思われる。

土坑3は東西0.40m以上、南北0.70m以上、深さ約0.13mで、トレンチ外へ広がる。埋土は2.5Y5/4黄褐色土で、遺物は出土しなかった。



第21図 箱作今池遺跡17-2区 トレンチ平面・断面図



第22図 箱作今池遺跡17-2区 出土遺物

### (3) 18-1区 (第16・23~25図)

調査区は箱作今池遺跡の北部に位置する。調査区内の北部に2ヶ所のトレンチを設定し、全体で12.60m<sup>2</sup>の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層10YR5/1褐灰色粘質土、第4層2.5Y6/1黄灰色粘質土、第5層2.5Y6/2灰黄色土(マンガン混)、第6層は10YR6/6明黄褐色土の地山である。地山は地表面から約-0.50mで検出した。

遺物は第4層からサヌカイト、須恵器、土師質土器、瓦器、第5層から土師器、須恵器、土師質土器、瓦器、土師質真蛸壺が出土した。出土遺物や周辺の既往調査から第4・5層は中世期と思われる。

遺構は地山面で土坑2基、ピット1基を検出した。

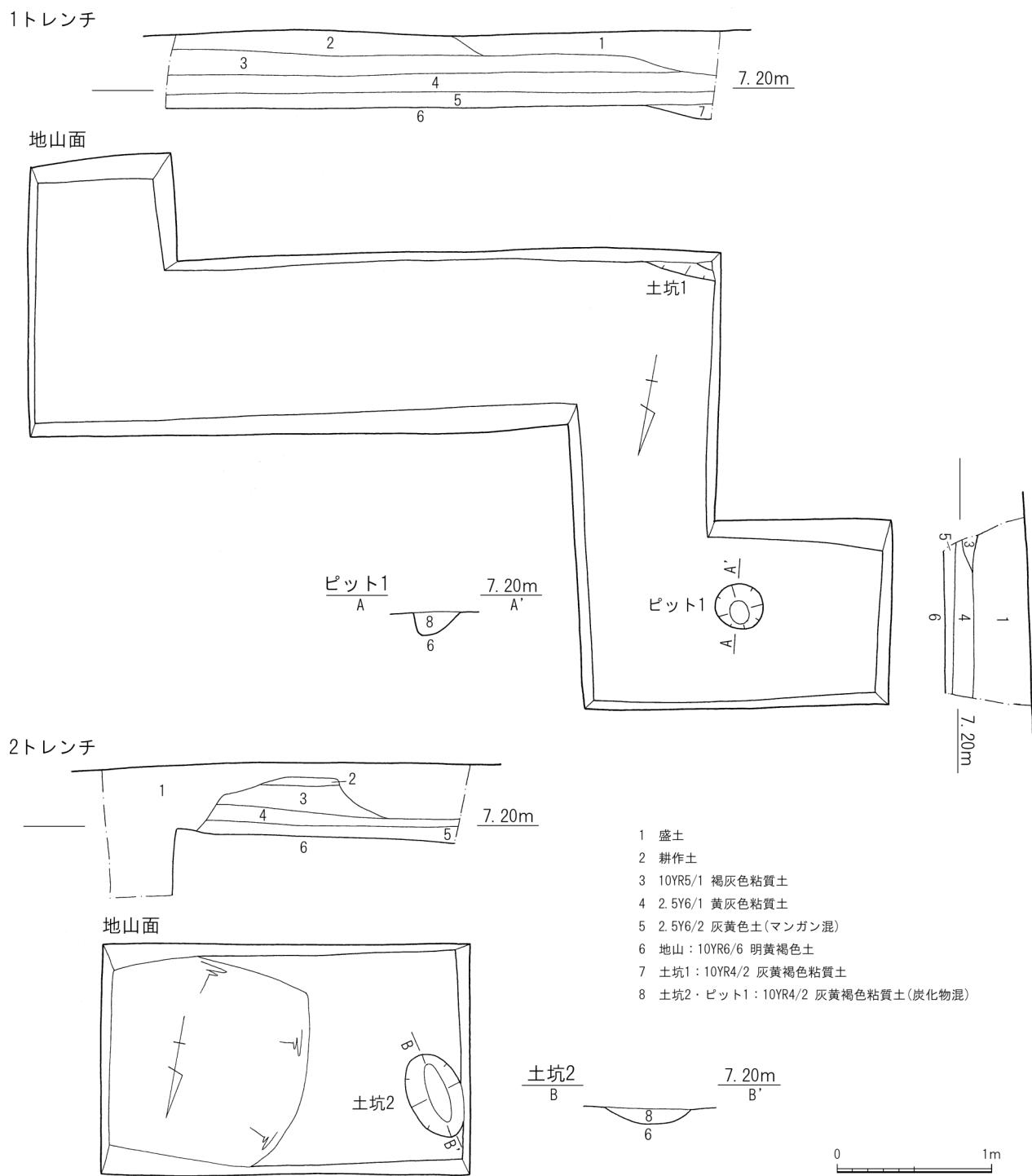
土坑1は1トレンチの北西部で検出した。東西0.50m以上、南北0.20m以上、深さ0.1m以上を測り、大半がトレンチ外に広がる。埋土は10YR4/2灰黄褐色粘質土である。遺物は土師器、須恵器が出土した。1~5は土師器で1は鉢、2・3は甕、4は長胴甕、5は鍋、6~9は須恵器で6は杯蓋、7は杯身、8・9は平瓶である。奈良時代の遺構である。

土坑2は2トレンチの西部で検出した。東西0.35m、南北0.58m、深さ0.1mを測る楕円形の土坑である。埋土は土坑1と同じ10YR4/2灰黄褐色粘質土であるが、炭化物が混じっていた。遺物は出土しなかったが、埋土が土坑1やピット1と同じことから奈良時代の遺構と思われる。

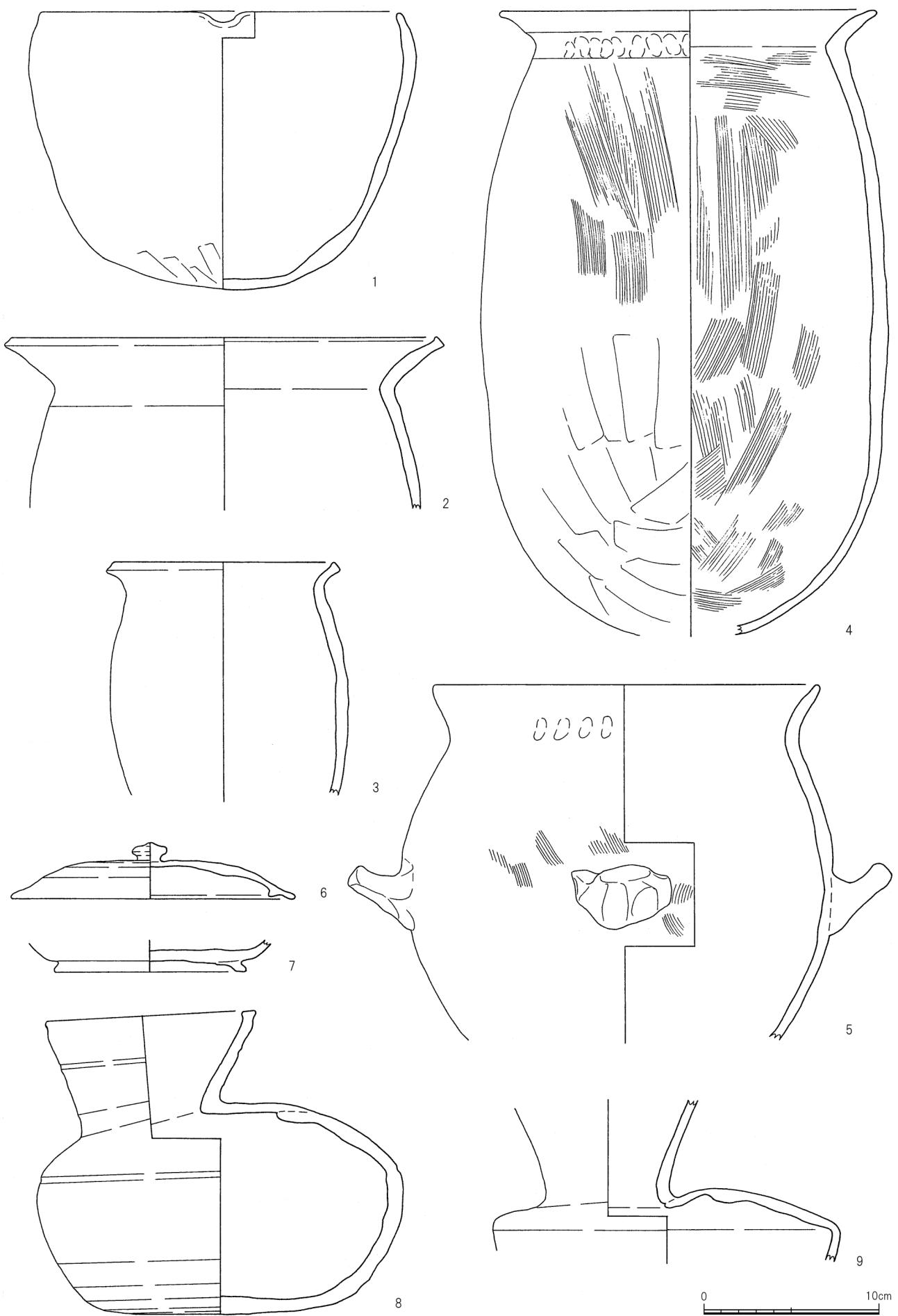


第23図 箱作今池遺跡18-1・18-2区 トレンチ位置図

ピット1は1トレンチの北西部で検出した。直径0.3m、深さ0.15mを測る。埋土は土坑2と同じ炭化物混じりの10YR4/2灰黄褐色粘質土で、製塩土器(奈良)が出土した。



第24図 箱作今池遺跡18-1区 トレンチ平面・断面図



第25図 箱作今池遺跡18-1区 出土遺物

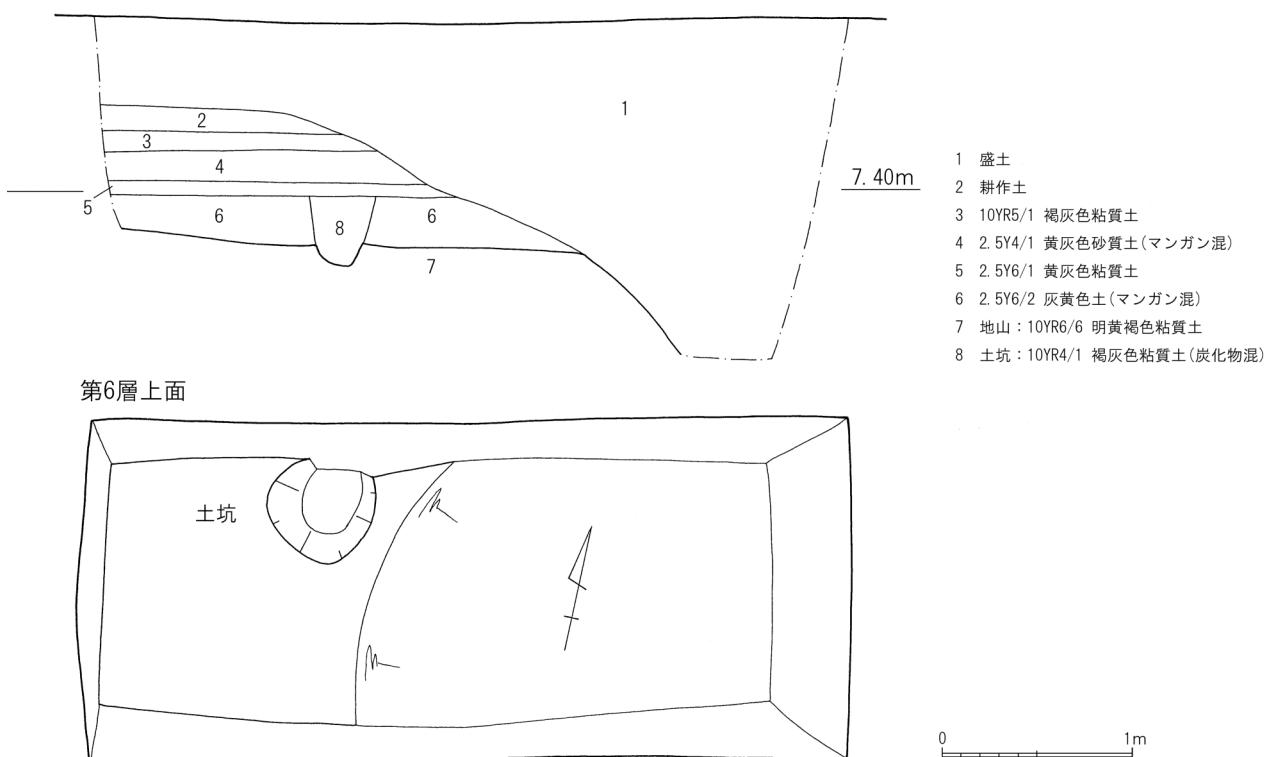
(4) 18-2区 (第16・23・26図)

調査区は箱作今池遺跡の北部に位置する。調査区内の北東部に4.0m×1.8mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層10YR5/1褐灰色粘質土、第4層2.5Y4/1黄灰色砂質土(マンガン混)、第5層2.5Y6/1黄灰色粘質土、第6層2.5Y6/2灰黄色土(マンガン混)、第7層は10YR6/6明黄褐色粘質土の地山である。地山は地表面から約-1.20mで検出した。

遺物は第4層から須恵器、製塙土器(奈良)、土師質土器、瓦器、第5層から土師器、須恵器、製塙土器(奈良)、第6層から須恵器が出土した。第4層は中世期、第5・6層は奈良時代の層と思われる。

遺構は第6層上面で土坑1基を検出した。土坑は東西0.57m、南北0.55m以上、深さ0.37mを測る、円形の土坑である。埋土は10YR4/1褐灰色粘質土で、炭化物が混じっていた。遺物は土師器、製塙土器(奈良)が出土した。奈良時代の遺構と思われる。



第26図 箱作今池遺跡18-2区 トレンチ平面・断面図

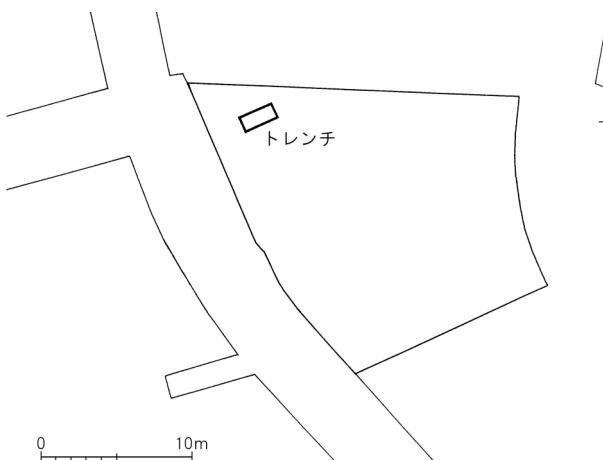
## 第6節 箱作南遺跡

箱作南遺跡は市内の北西部を流れる茶屋川の左岸に位置し、昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。

現在までに数件の調査が行われているが、調査は全て小規模なもので、遺跡の詳細は現在のところ不明である。



第27図 箱作南遺跡 調査区位置図



第28図 箱作南遺跡18-1区 トレンチ位置図

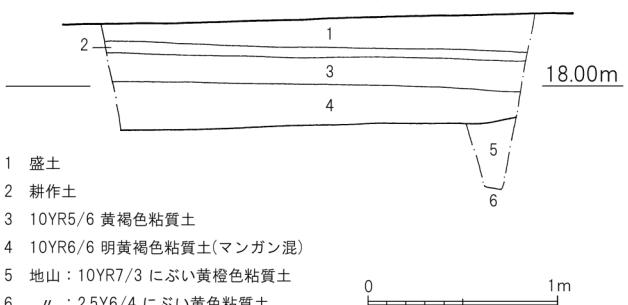
### (1) 18-1区 (第27~30図)

調査区は箱作南遺跡の西部に位置する。調査区内の北西部に2.3m×1.0mのトレンチを設定し、調査を行った。

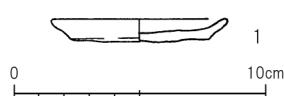
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層10YR5/6黄褐色粘質土、第4層10YR6/6明黄褐色粘質土(マンガン混)、第5層10YR7/3にぶい黄橙色粘質土、第6層2.5Y6/4にぶい黄色粘質土で、第5層以下は地山である。地山は地表面から約-0.55mで検出した。

遺物は第3層から1の土師質土器小皿が出土したのみである。

遺構は検出されなかった。



第29図 箱作南遺跡18-1区 トレンチ北側断面図



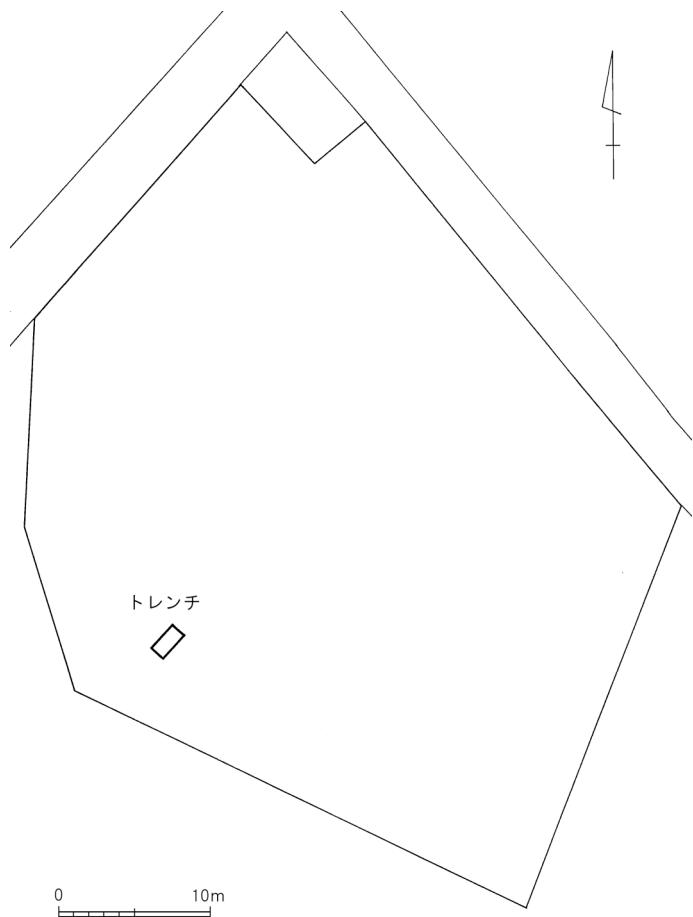
第30図 箱作南遺跡18-1区 出土遺物

(1) 18-2区 (第27・31図)

調査区は箱作南遺跡の北部に位置し、東を茶屋川が流れる。調査区内の西部に1.0m×2.1mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は盛土のみで、地表面から約-1.90mまで掘削したが、地山の検出にはいたらなかつた。掘削深度は、近隣の既往調査から想定する地山面よりはるかに深いため、当調査区は広範囲な攪乱内にあることが明らかである。

遺構は検出されず、遺物は出土しなかつた。



第31図 箱作南遺跡18-2区 トレンチ位置図

## 報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう37											
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要37											
副書名												
卷次												
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告											
シリーズ番号	59											
編著者名	田中早苗・山千代明日香・須崎雄一朗・島田万帆											
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室											
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 072-471-5678											
発行年月日	2019年3月31日											
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。' "		東経 。' "		調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因		
		市町村 番号	遺跡 番号	34	21	24	135				15	01
うま 馬 がわ 川	しもいで 下出	27232	39	34	21	24	135	15	01	20180417 ・ 0418	3.57	記録保存 調査
うま 馬 がわ 川	しもいで 下出	27232	39	34	21	24	135	15	01	20180419 ・ 0420	2.60	記録保存 調査
にし 西 とつ 鳥 取	とつとり 鳥取	27232	56	34	20	51	135	13	54	20180801 ・ 0802	2.30	記録保存 調査
とつ 鳥 取 みなみ 南	とつとり 鳥取	27232	55	34	20	43	135	14	13	20181204 ・ 1205	3.90	記録保存 調査
かい 貝 かけ 掛	カルイかけ 貝掛	27232	19	34	20	25	135	13	38	20180625 ・ 0626	7.92	記録保存 調査
はこ つくり いま いけ 箱作 今 池	はこつくり 箱作	27232	24	34	20	16	135	12	44	20180115 ・ 0116	4.20	記録保存 調査
はこ つくり いま いけ 箱作 今 池	はこつくり 箱作	27232	24	34	20	25	135	12	53	20180118 ・ 0119	3.00	記録保存 調査
はこ つくり いま いけ 箱作 今 池	はこつくり 箱作	27232	24	34	20	23	135	12	58	20180524 ～ 0529	12.60	記録保存 調査
はこ つくり いま いけ 箱作 今 池	はこつくり 箱作	27232	24	34	20	45	135	12	38	20180628 ・ 0629	7.20	記録保存 調査
はこ 箱 つくり みなみ 南	はこつくり 箱作	27232	59	34	20	23	135	12	33	20180723 ・ 0724	2.30	記録保存 調査
はこ 箱 つくり みなみ 南	はこつくり 箱作	27232	59	34	20	27	135	12	35	20181024 ・ 1025	2.10	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記項
馬川	散布地	弥生時代～中世期		サヌカイト、土師器、須恵器、須恵器飯蛸壺、製塩土器(奈良)、土師質土器、瓦器、土師質真蛸壺	
馬川	散布地	弥生時代～中世期		サヌカイト、土師器、須恵器、製塩土器(奈良)、土師質土器、瓦器、土師質真蛸壺、中世瓦、片岩、炭化物	
西鳥取	散布地	平安時代～中世期	ピット	土師器、須恵器、製塩土器(奈良) 土師質土器、土師質真蛸壺、陶器 磁器、炭化物	
鳥取南	散布地	弥生時代～中世期			
貝掛	集落跡	縄文時代～近世期		土師質土器	
箱作今池	散布地 生産遺跡 集落跡	古墳時代～中世期		須恵質土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、土師質真蛸壺、中世瓦	
箱作今池	散布地 生産遺跡 集落跡	古墳時代～中世期	土坑	土師質土器、瓦器、土師質真蛸壺 陶器、磁器、近世瓦、鉄釘、スサ入り焼土塊、炭化物	
箱作今池	散布地 生産遺跡 集落跡	古墳時代～中世期	土坑、ピット	サヌカイト、土師器、須恵器、製塩土器(奈良)、土師質土器、瓦器、土師質真蛸壺	
箱作今池	散布地 生産遺跡 集落跡	古墳時代～中世期	土坑	土師器、須恵器、製塩土器(奈良) 土師質土器、瓦器	
箱作南	散布地	中世期		土師質土器	
箱作南	散布地	中世期			